

経済・金融フラッシュ

No.07-020 2007/05/30

鉱工業生産 07年4月～輸出停滞から減速傾向強まる

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

1. 生産指数は2ヵ月連続の低下

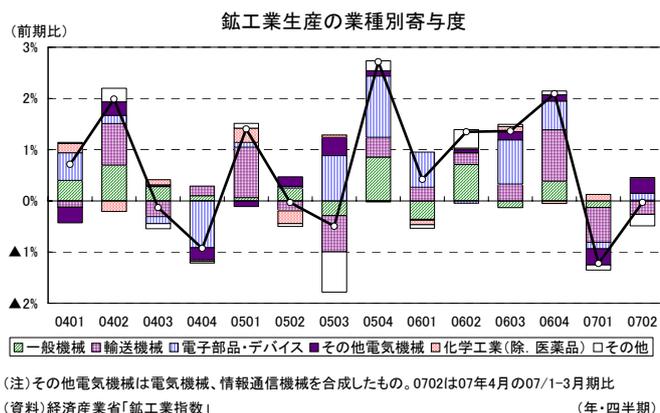
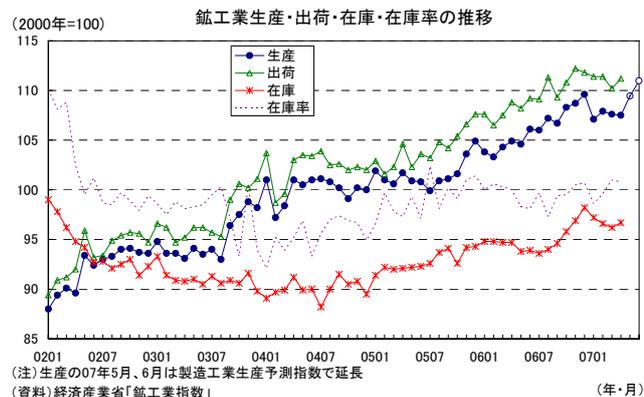
経済産業省が5月30日に公表した鉱工業指数によると、4月の鉱工業生産指数は前月比▲0.1%と2ヵ月連続で低下し、市場の事前予想（ロイター集計：前月比0.5%、当社予想も0.5%）を下回った。出荷指数は、前月比0.9%と2ヵ月ぶりの上昇、在庫指数は前月比0.5%と4ヵ月ぶりの上昇となった。

生産指数は1月に前月比▲2.3%の大幅な低下となった後、ほぼ横ばいの動きを続けている。輸出の停滞を背景に足もとの生産は減速傾向を強めている。

4月の生産を業種別に見ると、米国を中心として輸出の増加に陰りが見られる輸送機械が前月比▲2.8%、在庫の大幅な積み上がりが続いている電子部品・デバイスが前月比▲0.3%との低下となったが、一般機械が前月比2.9%、電気機械が同6.2%の上昇となった。

速報段階で公表される16業種中半数を超える9業種が上昇となった（低下が6業種、横ばいが1業種）が、ウエイトの高い輸送機械（全体の12.3%）が大幅な低下となったため、生産指数全体としてはマイナスとなった。

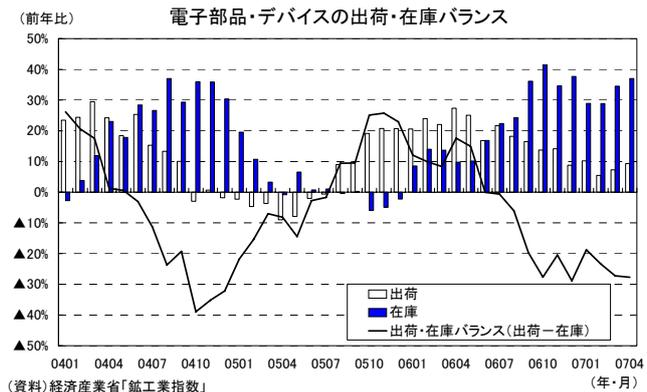
設備投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は3月に前月比▲7.0%（1-3月期は前期比▲1.2%）と急速に落ち込んだが、4月には前月比8.7%と急上昇した。1-3月期のGDP1次速報では、設備投資が5四半期ぶりの減少となったが、4-6月期の設備投資動



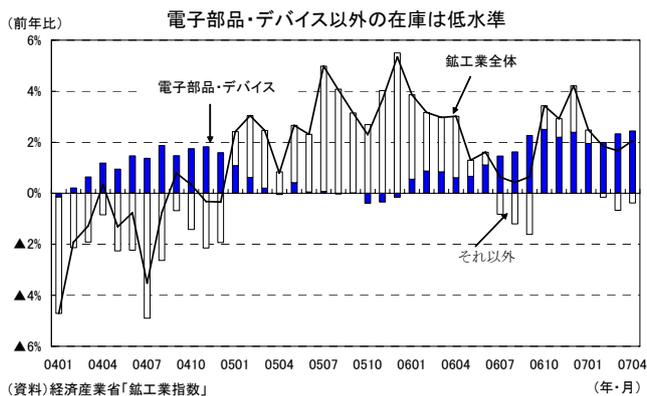
向を占う上では好材料と言えよう。

2. 鉱工業全体の在庫調整は回避か

電子部品・デバイスの在庫指数は前月比▲0.3%の低下となったが、前年比では37.0%と前月よりも積み上がり幅が広がった（3月：同34.5%）。出荷の伸びは若干高まったが（3月：前年比7.3%→4月：同9.3%）、出荷・在庫バランス（出荷・前年比－在庫・前年比）は▲27.7%と、3月の▲27.2%から若干悪化しており、在庫調整に目処がつくまでにはかなりの時間を要すると見られる。先日発表された4月の貿易統計でIT関連品目の輸出の伸びが鈍化していることも懸念材料のひとつである。



ただし、それ以外の業種の在庫は総じて低水準で推移しており、現時点では在庫調整が鉱工業全体に広がるリスクは低いと考えられる。



製造工業生産予測指数は、5月が前月比1.8%、6月が同1.4%となった。予測指数をもとに計算すると、4-6月期の生産は前期比1.7%となる。ただし、最近の鉱工業生産指数の実績値は予測指数の伸びを下回る傾向があるため、この数字は割り引いて見る必要がある。現時点では4-6月期の生産が2四半期ぶりの上昇となる可能性は高いと考えられるが、1-3月期の落ち込み（前期比▲1.3%）を取り戻せるかどうかは微妙となってきた。

生産の先行きを見る上での懸念材料は米国経済の動向である。米国の1-3月期の実質経済成長率は前期比年率1.3%の低い伸びとなったが、日本から米国向けの輸出数量は3月、4月と前年比でマイナスとなっている。米国経済の停滞が続くようであれば、輸出の悪化を通じて、生産の低迷が長引く可能性があるだろう。

(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)